

(3) 予測結果

① 二酸化窒素

建設機械等の稼働により発生する排出ガスによる二酸化窒素への影響の予測結果は、表 5.2.69 に示すとおりである。また、周辺地域における窒素酸化物の寄与濃度（年平均値）は、図 5.2.27 に示すとおりである。

建設機械等による窒素酸化物の寄与濃度の、周辺住居地等における最大着地濃度地点は会場予定地南東の住居地点となり、最大着地濃度の年平均値は 0.00085ppm となると予測された。

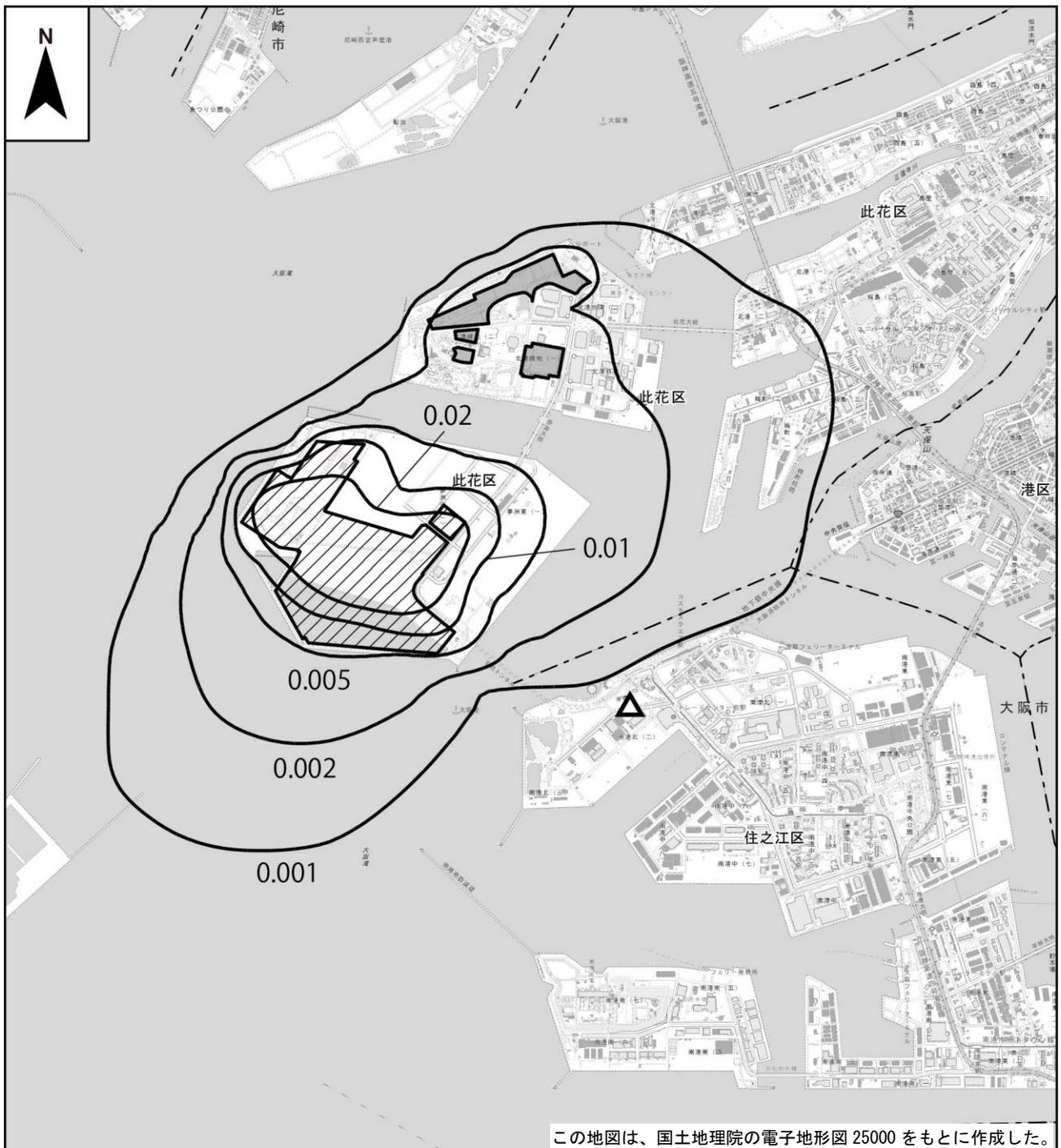
また、その地点における二酸化窒素の日平均値の年間 98%値は、0.041ppm と予測された。

表 5.2.69 建設機械等の稼働により発生する排出ガスの予測結果（二酸化窒素）

予測時期	予測対象	窒素酸化物年平均値			二酸化窒素		寄与率 (%) ①/③×100
		寄与濃度の 最大着地濃度 (ppm) ①	バックグラウンド 濃度 (ppm) ②	環境濃度 (ppm) ③=①+②	年平均値 (ppm)	日平均値の 年間 98%値 (ppm)	
工事 最盛期	周辺 住居 地域等	0.00085	0.026	0.02685	0.0203	0.041	3.2

注：1. 寄与濃度の最大着地濃度は、会場予定地周辺の住居地域等において着地濃度が最大となる住居地点における濃度である。

2. バックグラウンド濃度は、現地調査結果と一般環境大気測定局（南港中央公園）のデータ間で単相関分析を行い、得られた回帰式に一般環境大気測定局（南港中央公園）の至近 5 年間の年平均値の平均値を代入することにより求めた。



この地図は、国土地理院の電子地形図 25000 をもとに作成した。

凡例

単位 : ppm

-  会場予定地
-  (仮称) 舞洲駐車場予定地
-  市区界
-  周辺住居地等における最大着地濃度地点

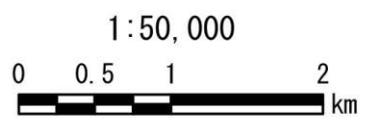


図 5. 2. 27 建設機械等の排出ガスによる窒素酸化物年平均値寄与濃度(工事最盛期)

② 浮遊粒子状物質

建設機械等の稼働により発生する排出ガスによる、浮遊粒子状物質への影響の予測結果は、表 5.2.70 に示すとおりである。また、周辺地域における寄与濃度（年平均値）は、図 5.2.28 に示すとおりである。

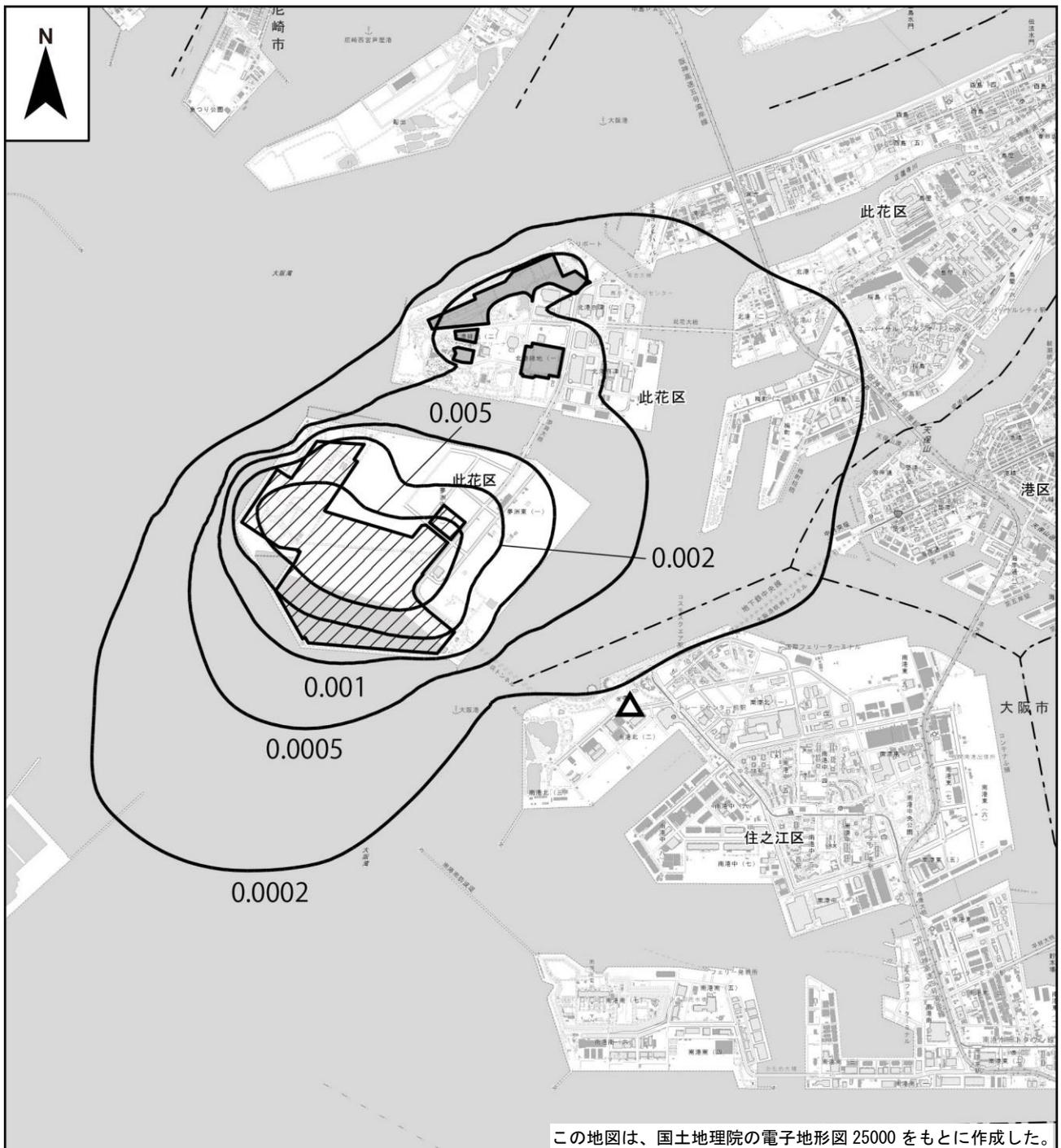
建設機械等による浮遊粒子状物質の寄与濃度の、周辺住居地等における最大着地濃度地点は会場予定地南東の住居地点となり、最大着地濃度の年平均値は $0.00019\text{mg}/\text{m}^3$ となると予測された。

また、その地点における浮遊粒子状物質の日平均値の 2%除外値は $0.060\text{mg}/\text{m}^3$ となり、環境基準値を下回ると予測された。

表 5.2.70 建設機械等の稼働により発生する排出ガスの予測結果（浮遊粒子状物質）

予測時期	予測対象	浮遊粒子状物質年平均値			日平均値の 2%除外値 (mg/m^3)	寄与率 (%) $\text{①}/\text{③} \times 100$
		寄与濃度の 最大着地濃度 (mg/m^3) ①	バックグラウンド 濃度 (mg/m^3) ②	環境濃度 (mg/m^3) ③=①+②		
工事 最盛期	周辺住居 地域等	0.00019	0.029	0.02919	0.060	0.7

- 注：1. 寄与濃度の最大着地濃度は、会場予定地周辺の住居地域等において着地濃度が最大となる住居地点における濃度である。
2. バックグラウンド濃度は、現地調査結果と一般環境大気測定局（南港中央公園）のデータ間で単相関分析を行い、得られた回帰式に一般環境大気測定局（南港中央公園）の至近 5 年間の年平均値の平均値を代入することにより求めた。



この地図は、国土地理院の電子地形図 25000 をもとに作成した。

凡例

単位：mg/m³

-  会場予定地
-  (仮称) 舞洲駐車場予定地
-  市区界
-  周辺住居地等における最大着地濃度地点

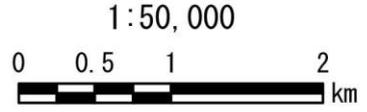


図 5.2.28 建設機械等の排出ガスによる浮遊粒子状物質年平均値寄与濃度(工事最盛期)

(4) 評価

① 環境保全目標

大気質についての環境保全目標は、「環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること」、「環境基本法に定められた環境基準の達成と維持に支障がないこと」、「大気汚染防止法、大阪府生活環境の保全等に関する条例に定められた排出基準、総量規制基準、規制基準等に適合すること」、「大阪市環境基本計画の目標、方針の達成と維持に支障がないこと」とし、本事業の実施が及ぼす影響について、予測結果を環境保全目標に照らして評価した。

② 評価結果

建設機械等の稼働により発生する排出ガスの予測結果は、表 5.2.71 及び表 5.2.72 に示したとおりであり、いずれの項目についても、予測地点における環境濃度が環境基準値を下回ると予測された。二酸化窒素については、大阪市環境基本計画の目標値を超過したが、建設機械等の稼働により発生する排出ガスの寄与率は、予測地点で最大 3.2%であった。また、浮遊粒子状物質の寄与率は、最大 0.7%であった。

建設機械等の稼働にあたっては、以下の対策を行い、建設機械等からの排出ガスによる周辺環境への影響をできる限り低減する計画である。

- ・ 工事区域の周囲に仮囲いを行い、適宜散水及びタイヤ等の洗浄を行い、粉じんの発生・飛散防止を図る。
- ・ 工事实施時点における最新の排出ガス対策型建設機械を採用するよう努め、建設機械の空ぶかしの防止、アイドリングストップの励行及び同時稼働のできる限りの回避等の適切な施工管理を行う。
- ・ 工事の実施にあたっては、工区割を行い、できる限り影響が低減されるよう、工事の平準化に努める。
- ・ 解体時には、工事区域の周囲の仮囲いに加え、解体建物の周囲にパネルを設置するとともに、適宜散水及びタイヤ等の洗浄を行い、粉じんの発生・飛散防止を徹底する。

以上のことから、周辺環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮する計画であり、環境保全目標を満足するものと評価する。

表 5.2.71 建設機械等の稼働により発生する排出ガスの予測結果と環境保全目標値との比較
(二酸化窒素)

予測時期	予測対象	窒素酸化物年平均値			二酸化窒素		寄与率 (%) ① / ③ × 100	環境保全目標値	
		寄与濃度の 最大着地 濃度 (ppm) ①	バック グラウンド 濃度 (ppm) ②	環境濃度 (ppm) ③=①+②	年平均値 (ppm)	日平均値の 年間 98% 値 (ppm)		環境基準値	大阪市環境 基本計画の 目標値
工事 最盛期	周辺 住居 地域等	0.00085	0.026	0.02685	0.0203	0.041	3.2	1 時間値の 日平均値が 0.04~0.06 ppm のゾーン 内または それ以下で あること	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下 であること

- 注：1. 寄与濃度の最大着地濃度は、会場予定地周辺の住居地域等において着地濃度が最大となる住居地点における濃度である。
2. バックグラウンド濃度は、現地調査結果と一般環境大気測定局（南港中央公園）のデータ間で単相関分析を行い、得られた回帰式に一般環境大気測定局（南港中央公園）の至近 5 年間の年平均値の平均値を代入することにより求めた。

表 5.2.72 建設機械等の稼働により発生する排出ガスの予測結果と環境保全目標値との比較
(浮遊粒子状物質)

予測時期	予測対象	浮遊粒子状物質年平均値			日平均値の 2%除外値 (mg/m ³)	寄与率 (%) ① / ③ × 100	環境保全目標値
		寄与濃度の 最大着地 濃度 (mg/m ³) ①	バック グラウンド 濃度 (mg/m ³) ②	環境濃度 (mg/m ³) ③=①+②			環境基準値
工事 最盛期	周辺住居 地域等	0.00019	0.029	0.02919	0.060	0.7	1 時間値の日平均値が 0.10mg/m ³ 以下で あること

- 注：1. 寄与濃度の最大着地濃度は、会場予定地周辺の住居地域等において着地濃度が最大となる住居地点における濃度である。
2. バックグラウンド濃度は、現地調査結果と一般環境大気測定局（南港中央公園）のデータ間で単相関分析を行い、得られた回帰式に一般環境大気測定局（南港中央公園）の至近 5 年間の年平均値の平均値を代入することにより求めた。